

ふじなわ 喜和

2018 秋号 よしかず No.32

発行：ふじなわ喜和
鳥取市湖山町北4丁目812
tel&fax 0857-28-2795

とっとり情熱がわら版
●県議会だより●



アシックススポーツミュージアム（神戸市）

平成30年春からのふじなわダイアリー

- 4月 1日 鳥取市中核市移行記念式典、北四丁目町内会総会
- 5日 県立歯科衛生専門学校入学式
- 6日～8日 競泳日本選手権大会（都内：辰巳水泳場）
- 12日 県東部管工事業協会総会
- 14日 「砂の美術館」オープニング式典（福部町）
- 20日 地域振興県土警察常任委員会
- 21日 （一財）県水泳連盟強化指定選手認証式（倉吉市）
- 22日 湖山西自治会総会
- 23日 台北駐日代表処 謝長延代表 来鳥歓迎会
- 27日 県東部浄化槽協会東部支部総会
- 5月 15日 青少年育成鳥取市民会議総会
- 20日 自民党県連定期大会（米子市）
- 21日 地域振興県土警察常任委員会 設備設計事務所協会総会
- 22日～24日 地域振興県土警察常任委員会県外調査（高知市外）
- 27日 湖山池シーズンウォーク開会式 湖山西地区運動会
- 28日 県浄化槽協会総会（米子市）
- 6月 1日 会派政務調査会
- 2日 アサヒほろにが会 グランドゴルフ大会（白兔）
- 4日～6日 県外調査（山口市外）
- 9日 ボーイスカウト鳥取連盟総会（倉吉市）
- 10日 鳥取市みんなであるこう会（上月城跡外）
- 11日 中国五県浄化槽協会総会（米子市）
- 12日 県外調査（松江市・島根原子力発電所）
- 14日～7月5日 県議会6月定例議会
- 17日 （一社）鳥取県バスケットボール協会代議員会（倉吉市）
- 23日 競泳中国五県対抗（山口市）
- 27日 台北駐日経済文化代表処 謝長延代表 表敬陳情（都内）
- 28日 藤縄 一般質問
- 7月 7日 飛込み 三上紗也可・安田千万樹コーチ・アジア大会代表壮行会（米子市）
- 12日 鳥取ガスグループ創立百周年記念式典
- 13日～15日 台湾銘傳大学留学生ホームステイ受け入れ
- 7月 17日 県ビルメンテナンス協会総会（米子市）
- 19日 山陰海岸ジオパーク推進議員の会総会（新温泉町）
- 21日～22日 中国高校水泳大会（米子市）
- 23日 会派現地調査（豪雨災害現地調査 若桜町・智頭町）
- 28日 鳥取砂丘コナン空港グランドオープン記念式典
- 8月 3日 ボーイスカウト鳥取連盟日本ジャンボリー出発式
- 4日 北四丁目町内納涼会祭 あげぼの町内納涼祭
- 6日～8日 地域振興県土警察常任委員会県外調査（北見市外）
- 11日 山陰海岸ジオパーク因幡・但馬交流陸上競技大会（鳥取市）
- 18日～19日 バスケットボール国体・中国ブロック予選大会（防府市）
- 21日 地域振興県土警察常任委員会
- 27日 県外調査（岐阜市）
- 30日 福井国体会期前競技（水泳外）結団式（鳥取市）
- 9月 2日 バスケットボールU16 国体候補選手認定証授与式（北栄町）
- 4日 会派政務調査会
- 15日～17日 福井国体会期前競技（水泳）大会（敦賀市）
- 18日～10月15日 県議会9月定例議会
- 21日 福井国体結団式
- 24日 ブラジル訪問団報告会
- 29日 ひかり幼稚園、ひかりの子保育園運動会
- 10月 3日 藤縄 一般質問
- 8日 玄忠寺 荒木又右衛門没後380年祭
- 10日 県外調査（コウノトリ但馬空港）
- 16日 決算審査特別委員会分科会・現地調査
- 20日 山陰海岸ジオパーク 居組～浦富海岸（10km 完歩）
- 23日 鳥取県戦没者慰霊祭（倉吉市）
- 26日 鳥取砂丘ビジターセンター開館記念式典（福部町）
- 27日～28日 湖山西ワクワク祭り
- 28日 鳥取砂丘らっきょう花マラソン
- 31日～11月3日 台湾訪問（台中市外）

●2018.6.29 日本海新聞

鳥取国体2033年にも 年度内に誘致表明

知事

鳥取県の平井伸治知事は28日の県議会本会議で、2巡目となる国民体育大会（国体）の県内開催について、本年度中にも誘致を正式表明したい考えを示した。開催時期は14年後の「2033年」となる可能性を示唆した。鳥根県が29年開催を模索しており、施設を両県で融通し合う「協力開催」に向け協議していく。

実現すれば、1985年の「わかとり国体」以来、全国持ち回りで開かれる国体は88年の京都国体から2巡目に入った。2028年までは開催地が決定、ま

たは名乗りを上げており、33年で2巡目が終わる。西日本で2度目の開催が決まっているのは鳥取、島根、沖縄の3県。平井知事は「先陣争いをする時代では無い。島根県が先に競技力アップやノウハウ獲得にも役立つ」とし、島根、鳥取の順で開催できるよう協議していくとした。

一方、島根県が29年に開催する場合、中日本と東日本を挟み鳥取県は32、33年のいずれかに回ってくるが、平井知事は「最後の33年を『大トリ』で務める

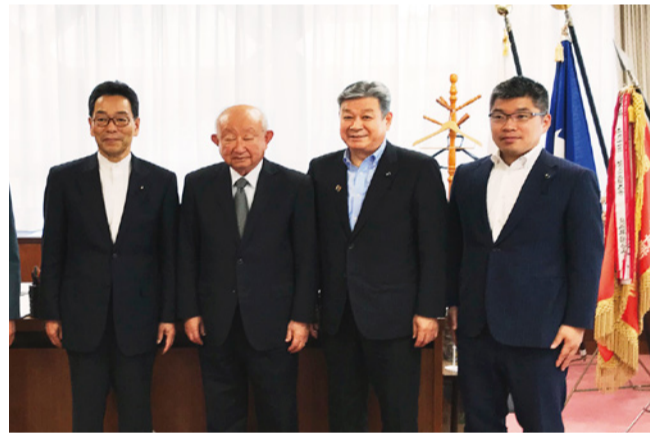


2018.6 月定例県議会 一般質問

21世紀 県政のキーワードはK

教育・経済・環境・観光・健康
Kyouiku Keizai Kankyou Kankou Kenkou

豊かな実績で県政をリード!



2018.6.22 鳥取ブラジル県人会前会長 本橋幹久氏 県議会ブラジル友好議員連盟表敬



2018.11.1 台中市立沙鹿中学校調査



2018.11.2 台湾台中市と鳥取県の友好交流協定締結 左から林市長、平井知事ほかと（台中市）



2018.8.30 青山学院大学社会学部社会学情報学センター（鹿野町）にて 対宿後文教授と「青学大OBの方と



2018.5.3 町内有志と東郷池一周ウォーク



2018.9 月定例県議会 一般質問

鳥取ー台北に初の連続チャーター便



台北ー鳥取間で連続チャーター便として運航される中華航空の「B737-800」(中華航空提供)

今年11-12月 7往復14便、最大930人

鳥取県は28日、台湾・台北ー鳥取間で今年11月11日から12月5日にかけて、連続チャーター便が運航されると発表した。7往復14便が運航され、台湾から最大930人が鳥取、島根両県を訪れ紅葉スポットや主要観光地を巡る。台湾から鳥取空港への連続チャーター便は初。7月末にリニューアルオープンする鳥取砂丘コナ空港の国際化に弾みが付く。(北尾雄一)

山陰ジオパーク 支援強化確認

3府県議の会

「山陰海岸ジオパーク推進三府県議員の会」(会長・藤縄喜和鳥取県議)は19日、兵庫県新温泉町芦屋の山陰海岸ジオパーク館で本年度総会を開いた。8月6-9日に行われる世界ジオパークネットワークの再審査をはじめ、さらなる発展を目指したPRや各種活動への支援を強化していくことを確認。3府県知事などに宛てて要望書を提出した。総会には行政関係者を含む20人が出席した。再認定審査やジオ



山陰海岸ジオパークの取り組み強化に向けた意気込みを語る藤縄会長(19日、兵庫県新温泉町芦屋の山陰海岸ジオパーク館)

パークへのアクセス向上に対する支援など本年度事業計画を承認。要望には、自治体や関係機関が連携し、山陰海岸ジオパークの保全や活用に万全を期すことやジオツーリズムの備えたい」と述べた。(戸田大貴)



2018.7.23 智頭町7月豪雨災害 現地調査



2018.7.23 若桜町7月豪雨災害 現地調査

ツアーが生まれ、智頭 鳥取空港では、これ 町や倉吉市などで紅葉 とは別に11月にマンダ を楽しむほか、鳥取砂 リン航空による台中 丘や青山山頂(ふもと) 鳥取間の相互チャータ 館、水木しげるロード ー便も最終調整中。平 なども訪れ、三朝や皆 井伊治知事は28日の県 生温泉に宿泊する。一 議会本会議で藤縄喜和

2018.4.24 日本海新聞

「定期便就航 目標に協力」

台北駐日経済文化 代表処代表が来鳥

台湾の日本での外交 窓口機関「台北駐日経 済文化代表処」の謝長 廷代表が23日、視察の ため鳥取市を訪れ、平 井伊治県知事と面談し た。台湾からの観光誘 客支援を要請した平井 知事に対し、謝代表は 鳥取ー台湾間の定期便 就航を目標に協力して いく考えを示した。 文化代表処は台湾の 駐日大使館に相当する 機関。代表の来鳥は2 014年以來で、県日 台親善協会(藤縄喜和 会長)との交流を兼ね て来鳥した。 台湾からは今年、計 3千人規模の観光ツア ーが来訪予定。県は11 月に台中市で開かれる で「北栄町や三朝町と 花博にも出展する予定 の交流などを基礎に、 友好関係をさらに深め て、平井知事は「ぜひ 後押しも要請した。 謝代表は、梨のほ木



台湾と県の友好関係の強化を強調する謝代表 =23日、鳥取市国安の有隣荘

2018.10.4 日本海新聞

棚上げの鳥取市「美術館道路」 任期内の解決に意欲

平井知事

鳥取市の平井伊治知 事3日の県議会本会 議で、1999年に凍 結された県立少年自然 の家跡地(鳥取市桂見) での県立美術館計画に 関連し、市が整備した アクセス道の建設費の 清算の問題について、 3期目の任期中に鳥取 市側と協議したい考え を示した。 同跡地では西尾邑次 県政時代の96年に美術

館建設が決まり、市は 問題が棚上げされたま ま。県教委が解決の糸 口を見いださそうと接触 を図ってきたが協議は 進まず、市側の不信感 が高まっていた。 平井知事は答弁で 「市には率直に迷惑を かけていることを自覚 している。未解決課題 については市と協議し、 決まったが、約4億6 千万円(市の実質負担 額は約2億3千万円) の血税を投じた市道の 持つて話し合いたい」



副議長執務室

2018.9月定例県議会 一般質問↓



地域の課題解決に全力投球!

2018.9.25 日本海新聞

若い世代と交流を



鳥取県出身のブラジル日系人との交流について意見を交わす 出席者ら=24日、鳥取市のとりぎん文化会館

「ブラジル日本移住110周年記念フォーラム」(鳥取県など主催)が24日、鳥取市のとりぎん文化会館であった。「ブラジルの今」をテーマに、交流団体の代表や日本語学校への派遣経験者らがパネル討議。移住した県出身者らの軌跡を振り返り、交流の意義や拡大について考えた。(北尾雄一)

今年1908(明治41)年の第1回ブラジル移民船の出港から110年。県からは戦前、戦後を通じて約2300人が移住した。討議に先立ち、7月にブラジルで開かれた移住110周年記念式典などに出席した県議会の福岡裕隆副議長が交流の成果を報告。日系人は出身県を誇りとしており、次の世代の日系人にも魅力的な故郷であり続ける努力が重要と所感を述べた。パネル討議では、2016、17年度にブラジル第2アリアンサ鳥取村の日本語学校に派遣されていた福米中語った。

ブラジル鳥取友好議連の藤縄喜和幹事長は、県もブラジル移民を推進した経緯を踏まえ、日本語学校への講師派遣事業を継続すべきと主張。県の岡村整諮統轄監は「全国で唯一、県だけが教師を派遣している。将来の経済交流の担い手として子どもたちが育つよう、ぜひ続けたい」と語った。

ブラジル移住110周年記念フォーラム

派遣経験者ら意義語る鳥取

「ブラジル日本移住110周年記念フォーラム」(鳥取県など主催)が24日、鳥取市のとりぎん文化会館であった。「ブラジルの今」をテーマに、交流団体の代表や日本語学校への派遣経験者らがパネル討議。移住した県出身者らの軌跡を振り返り、交流の意義や拡大について考えた。(北尾雄一)

(米子市)の大場諒教諭が「日系1、2世は母国意識が強いが、若い世代にとって鳥取は新たに学ぶもの」と話し、若い世代に交流をつなげていく必要性を強調。鳥取ブラジル交流団体連絡協議会の田辺賢二代表は「古き良き日本人の心が日系社会に残っている」とし、交流を通して学ぶべきことは大きいと述べた。